

初めてがたくさん！！

中学3年

韓国大田市ホームステイ

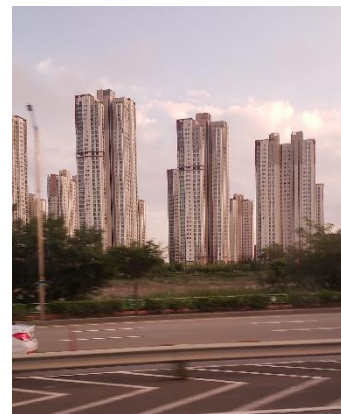
白石雛子

<事業に参加しようと思った理由>

最初は海外に行ってみたという気持ちが一番だった。なぜなら、日本の外を知ることによって日本を理解することができるのではないだろうかと感じたからだ。私は、学校で茶道や百人一首などのサークルに入り日々、日本文化に触れている。この事業に参加することでもっと日本文化を理解することができるのではないだろうかと思った。しかし、事前研修を行っていくうちに、韓国というものに徐々にひかれていった。日本とは違う文化に興味が出たからだ。

<一日目>

ドキドキの一日目これからどんなことが起きるのか不安にも思ったが楽しみのほうが大きかった。出国検査をして出口を出たときはなんか変な気分になった。日本から出たという感覚はなかった。一緒に行く団員ともたくさん話して、緊張を和らげた。いざ飛行機に乗ると、どんどん楽しみになっていた。機内食も食べた。少し辛くて、韓国での食事が不安になった。でもとてもおいしかった。飛行機を降りて、バスに乗って夕食を食べるまでは、あっという間だった。バスから見えるいくつもの高層ビルをみて、北海道とはスケールが違うなと思い、韓国に来たんだなと実感した。夕食で食べたキムチはとても辛くむせてしまった。ホストファミリーにあったら辛い物は苦手ですと言おうとその時決心した。夕食後のバスでは、日本で覚えた韓国語を思い出し、みんなで確認しあった。ほかの団員はホストファミリーに会うのに緊張していたが私は特に緊張しなかった。それよりもワクワクの方が大きかった。いざ、ホストファミリーに会い、覚えた韓国語を使って、自己紹介をした。伝わった様だったのでとてもうれしかった。そのあと、イチゴジュースを飲み、コミュニケーションを取ることができ、安心した。英語を使ったり、スマホで翻訳したりしておしゃべりした。お家に行って、シャワーに入った。日本とは全く違うバスルームで戸惑うこともあ



ったが、何とか一日目が終わった。

<二日目>

ホームステイ先ではぐっすり寝ることができた。朝ごはんの量が多く、残してしまったので申し訳なかったが、ホストマザーは気にしないでと言ってくれた。外に出て、あらためて明るい大田をみると、右車線なことにとても違和感があった。信号機にカウントダウンがついていたりして面白かった。中央科学館のVR体験は初めてでとても楽しかった。初めての足湯を韓国で経験することには思わなかったけど、疲れた足にはとてもよく、気持ちがよかった。大田はとても暑くムシムシしていたけどリフレッシュすることができた。宇宙科学館に行ったときはリアル下町ロケットみたいでわくわくした。ハングルが読めるようになりたい!!夜御飯はトッポッキを食べた、最初はとても辛く食べられなかったが、だんだん食べられるようになった。もちもちしていてまた食べたいと思う。帰りに現地のスーパーに行って、日本のものがたくさん売られていて、とても驚いた。また、どの商品も安く、日本もこうなればいいのにと考えた。



<三日目>

わかめスープはお祝いの時に食べると聞いてびっくりした。今回は特別に作っていただきとてもおいしかった。ユンちゃんのアルバムをみせてもらった。めんこいし、韓国の文化を知ることができた。私も札幌の写真をみせながら日本について少し説明ができた。お昼に韓国のインスタントラーメンを食べた。日本のより、少し味が濃かったがおいしかった。午後は車に乗ってドライブをした、大きな湖にいたり、海を見に行ったりした、車内でユンちゃんと学校の話をして盛り上がった。韓国で習う教科は日本とあまり変わらなかった。夕食にうどんを食べて、日本食を自分が欲していたことに気が付いた。テーマパークに行って、アトラクションや花火を楽しんだ。韓国の花火は短かったが迫力がすごく近くでやっていた。最後に、家の近くの唐揚げ屋さんに行き、鶏肉を食べた。韓国人は夜型だなと思った。

<四日目>

最後の日、一日中大田駅の近くで遊んだ、私とユンちゃんとみみとスジンちゃんと遊んだ。お土産をたくさん買い大田を満喫した。ゲーム喫茶みたいなところに行きボードゲームやカードゲームを楽しんだ。お互いに英語を頑張って使い楽しめた。日本にもこんな場所があ

ったらいいのと思った。お別れパーティーのダンスは不安だったけど、ユンちゃんたちがほめてくれた。ほかの人たちの踊りもすごかった。ほんとに別れるときに思わず涙が出てしまった。とても寂しかったが、またいつかあえることを願ってお別れした。

<五日目>

ホストファミリーからももらったお土産はとても多かったが何とか収まった。荷造りをしているときとても寂しい気持ちになった。また、韓国に来たい！！と思える研修になってよかったと思う。日本の新たないいところも発見でき、この事業に参加できて本当に良かった。またこのような留学をしたい。別れはつらいが、得るものは大きかった。